

令和5年度「授業改善推進プラン」(全体計画)

■児童・生徒の学力の状況

○令和5年度の「全国学力・学習状況調査」から、国語ではどの分野でも都の平均以上を上回っているが思考力・判断力・表現力における「書くこと」においては他の分野と比べ34.3%と低い。算数でも概ね都の平均と近似値であるが「数と計算」が低い傾向がある。
○意欲を持って、めあてに応じた課題の取組ができる児童が多いが、順序立てて相手に伝わりやすいように話したり、自分の意見を根拠をもって書く力が十分ではない児童が多い。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題
※「読み解く力」の育成を踏まえて

○学習における「板橋区授業スタンダード」を徹底して、学習を振り返ることを定着させていく。
○全学年、「中台小授業スタンダード」で学習規律や持ち物等の学習環境を整え6年間を通して指導にあたる。
○学力向上委員会で、各学力調査等の結果を分析し課題を把握し、教員全体で共通理解を図ることはできているが、課題に対する具体的な取組や手立てを検討し、実践していくことが重要である。

■学校経営方針より(学力向上に関わる内容から)

○「深く考える子」の育成を重点とし「板橋区授業スタンダード」「中台小授業スタンダード」を実践し、読み解く力の向上、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得のための、指導の充実と改善を図る。
○問題解決型学習・協働学習・習熟度別学習・少人数学習指導など指導方法を工夫し、個性や発達段階に応じた学習指導や支援を生かし、課題解決に必要な思考力・判断力・表現力を育む。
○「MIM」を1・2年生で実施し、読む力の基礎的なつまづきを見付け多重層な教材を使用して解消する。
○Hyper-QUやRST等の結果を分析し児童指導や学習指導に活用する。
○タブレット型PCを活用した家庭学習習慣の定着を図る。
○「どくしょのあしあと」や年3回の読書週間、「おすすめの本」の紹介を通して読書習慣の定着を図る。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダードの徹底	読み解く力の育成	総合的な学習の時間との連携
○授業に対する児童の学習活動のめあてを明確にし、学習の見通しをもたせ、振り返りの中で自分の学習に対する自己評価を行う。 ○児童が自身で教科書を読み取り、課題を解決する時間を確保する。 ○協働学習によって考えをまとめたり、広げたり、深めたりできるように一人一台端末を活用する。	○年間を通して「読み解く力」の育成に向けた授業革新を行い、各教科において6つの基礎的読解力の要素を意識する。 ○授業の中にInput・Think・Outputを意識した活動を入れ、思考の時間の確保と表現力の向上をめざす。 ○月1回全学年で「書きブリ」「読みブリ」を実施し、自分の考えをもたせる児童の充実を図る。	○課題を解決する学習を通して、自分の価値観を高め、自己の生き方を探求していく授業を展開する。主体的に判断したり、ねばり強く考えたりすることにより、他者と共生する資質・能力を育成していく。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○「さくら草学びのエリア」として若木小学校・中台中学校、「特別支援学級における小中一貫交流エリア」として上板橋第三中学校との連携を図り、指導の接続を実施し、地域教育基盤の確立のために学校便り、学校公開、HP等での積極的な情報発信を行う。 ○自然豊かな中庭がある教育環境と20年以上続く花蓮及びさくら草の栽培活動を生かして、自然を大切に、地域の人とのつながる郷土愛を養う教育活動を大事にする。	○総合的な学習の時間における指導では、教科の既習事項を生かした探究的な学習活動を展開する。また、ESDやSTEAM教育に関連する内容をつなげて児童のOutputの学習活動を充実させる。 ○教育内容の質の向上に向けて、子どもたちの姿や地域の現状等に基づきPDCAサイクルを確立していく。 ○教育内容と教育活動に必要な人的・物的資源等を学校支援地域本部等の外部の資源も含めて活用しながら、効果的に組み合わせる。	○ICT支援員を積極的に活用し、授業等におけるICTの利活用を進める。 ○習熟の状況に応じた課題に児童が取り組むなどし、個別最適な学びを実現し、主体的に学習に取り組ませる。 ○協働学習では友達との意見交換を、ペアや小グループ、学級と形態を変えて多く取り入れながら、自分の考えと比較したり組み合わせたりしてよりよい考えを作り出す場面を設定する。